

思考力・判断力・表現力を問う定期考査問題づくりのヒント<社会>

定期考査は、生徒の学習状況を把握し学習指導の改善・充実を図る大変重要なものです。

定期考査の意義

教師

単元の指導の目標、内容、方法を明確にしたり、学習指導を改善・充実したりする。

指導と評価の
一体化

生徒

学習したことの意義や価値を実感し、目標や課題をもって学習を進める。

知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を評価する定期考査問題の作り方の一例を、次の【ステップ①】～【ステップ⑤】に示します。**単元を通して生徒に身に付けさせるべき力を明らかにするために、単元の学習に入る前に定期考査問題の作成**に取り組む学校も見られます。



定期考査問題づくりの構造

【ステップ①】出題のねらいを明らかにします。

・問題解決の見通しを立て、解決の結果や過程を社会的な見方・考え方を基に表現できる。など

【ステップ②】期待する正答を作成します。

必要な知識・技能を活用して、思考・判断・表現している具体的な記述例を作成します。

「何を、どのように思考・判断させて、表現（記述）させるか。」

をあらかじめ明確にすることが大切です。

これが、正答の条件（採点基準）の作成にもつながります。

単元の学習に係る学習指導要領の目標と内容を、「解説」をもとに、明確にします。

【ステップ③】知識・技能の内容を明らかにします。

- ・世界の様々な地域や日本の様々な地域についての理解 など
- ・古代から現代までの日本についての理解 など
- ・私たちと経済、政治、国際社会の諸課題についての理解 など

【ステップ④】思考・判断・表現の方法を明らかにします。

【思考・判断】

- ・比較する。分類する。
- ・関連付ける。類推する。
- ・総合する。 など

【表現】

- ・説明する。作図する。議論する。など
- ※議論する手法の場合は、発言内容や根拠資料などをもとに評価します。

【ステップ⑤】知識・技能を活用して、思考・判断・表現する場面や問い方を設定します。

- ・問題解決の過程（問題の把握⇒問題の解決⇒結果のまとめ）のうち、どの段階で思考・判断・表現させるのかを踏まえて、学習場面や生活場面を設定します。
- ・使用する資料の種類や数、説明させる際の条件（語句指定の有無など）を決めます。

平成31年度県立高校入試問題を用いて、【ステップ①】から【ステップ⑤】に沿って具体的に説明します。

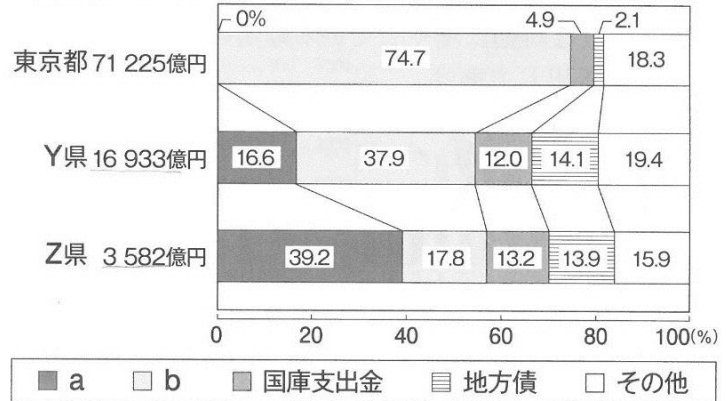


H31 5 問3

問3 下線部②について、資料ⅡのY、Zは、ある二つの県を示し、a、bは、地方税、地方交付税交付金のいずれかである。地方交付税交付金を示すものをa、bから一つ選び、記号で答えよ。

また、地方交付税交付金が配分される目的を、「格差」の語句を使って書け。

〈資料Ⅱ〉歳入の内訳と割合



(2019年版「データでみる県勢」から作成)

(正答例)
地方公共団体間の収入（または財政）の格差を減らすため。

【ステップ①】出題のねらいを明らかにします。

国が地方交付税交付金を配分する目的を説明できる。

・(3)イの地方自治の基本的な考え方について理解する。

【ステップ②】期待する正答を作成します。

地方公共団体間の収入（または財政）の格差を減らすため。

【ステップ③】知識・技能の内容を明らかにします。

- ・人口が増えると地方税収入も増えること
- ・地方税収入に応じて地方交付税交付金が配分されること

【ステップ④】思考・判断・表現の方法を明らかにします。

人口差のある複数の地方公共団体の歳入グラフを比較させることで、「人口と地方税収入の相関」と「地方税収入に応じた地方交付税交付金の配分」とを関連付けさせ、地方交付税制度の役割について説明させる。

【ステップ⑤】知識・技能を活用して、思考・判断・表現する場面や問い方を設定します。

- ・人口と自主財源の関連がよくわかるように、人口差が大きい都道府県（東京都、福岡県、鳥取県）の歳入内訳を提示する。
- ・人口と地方税収入の関係や地方税収入と地方交付税の交付の関係を理解できているかを見取るために、県名と歳入内訳を隠す。

地方交付税が配分される目的を理解できているかを見取るために、「格差」の語句を指定語句として与える。